

織媛の伝説に

ひかれて巡る初詣で

―西宮・池田そして太秦へ―

米花

稔△神戸大学名誉教授・福山大学教授▽

西宮に住みつた久しぶりに阪神「西宮東口」近くの松原天神に詣でる。お目当ては境内の「呉織漢織の松」「染殿池」の遺跡、世阿彌元清作の謡曲「呉服」の舞台である。さる廷臣が住吉詣でから浦づたいに西宮戎への道すがら呉服の里の松原で二人の乙女の里人が機を織っているのに会う。素性をたずねるとその昔応神天皇の御代呉の国から来朝した呉織漢織であると語り、暁近く装束をかけて現れ、漢織が糸を引き呉織が錦を機で織りあげて献上したという。日本書紀の伝説にもとづく。糸を染めたという僅かに残る池と、昭和初期枯死した古木の再生の松の遺跡を



西宮の松原天満宮

ここにみる。これにちなんで近くに染殿町、やや東の津門に呉羽町、綾羽町の地名をみるのである。

「呉服」といえば、阪急宝塚線「池田」近くに呉服神社があるので、そのかわりを思っで詣でる。ここも久しぶりである。縁起をうかがうと、さきにふれた呉服の里はここ摂津の池田であるとして、祭神は衣服の祖神を祀る呉服大神といわれる。今の中国の呉に遣いをだし機織の工匠を招き、それが呉織漢織で、猪名の港（猪名川）に機殿を建て呉織媛を迎えたという。ここでも市内に染殿井、絹掛松の遺跡があるという。

西宮から池田へ後の西国街道近くを進み、さらにさかのぼって、四条大宮から嵐電で洛西の「かいこの社」に至ってここに詣でる。縁起によると雄略天皇の御代呉の国より漢織呉織を召し秦氏の諸族と共に数多くの絹綾を織り出し、賜った姓からこの地を太秦と称したという。推古天皇の御代その養蚕、織物、染色の祖先として「かいこの社」が祭られたという。



京都太秦のかいこの社

神代から古代に移る前後というはるか古えのこと、伝説の内容をとかく詮索する必要はないであろう。手工時代の新技術の伝承は、人の移動によっていたことは、どの分野であれ歴史の示すところである。機織の新技術が武庫の浦そして西国街道、京の太秦へと伝えられたと思えば納得できるのである。

歴史時代になると、西宮の対岸、堺港の盛んな天正の頃、明の織工によって明様の紗、紋紗、金紋紗、錦、綾、羅、縮緬等の織法が、堺からやがて西陣の隆盛をもたらし、西陣からさらに全国各機業地にその技術が伝えられたという。初春の宮詣りが、心に果したくロマンを呼びおこしてくれるのであった。それにしても昨今の織物産業の環境のきびしさが気にかかることである。

Coffee Break



★「共に生きるために」ネパールの赤ひげ岩村昇さん
長年にわたり、アジアの医療向上と地域指導者の養成に尽力し、昨年はマグサイサイ賞を受賞。「草の根の代表として、いただきます」と岩村さん。



岩村 昇さん

82年、鳥取大学助教授の職を辞し、日本キリスト教海外医療協力会の派遣で、史子夫人と共にネパールの無医村へ。以来18年間、結核対策を中心に医療活動に献身。広島で被爆した後遺症で体の抵抗力が弱く、種々伝染病にもかかった。「村人から学んだことの方が多いです」と語る岩村さん。巡回先の村で見つけた重症の結核患者を背負い、診療所まで三日三晩かけて運んでくれた行きずりのボーターの言葉が忘れられないと言う。「生きるとは弱き者と分かち合うこと」。彼は謝礼を受け取らずとはしなかった。
86年、今度は神戸大学教

授の職を辞し、タイの農村に住みつき、公衆衛生学の専門家として活躍。

81年アジアの青年を招き農業や漁業の研修を行う「PHD」協会を神戸で発足。86年には埼玉県で企業家の協力を得、草の根開発のリーダーを養成する「国際人材開発機構」を設立。「平和づくり、健康づくりを担う人材を育てたい、村おこしを通じて貧困をなくしたい」と様々に取り組みを続ける。

★後藤清一さんの「米寿のお祝い会」開かれる
神戸輸入促進フォーラム

会長として、常に先見性をもつてフォーラムの活動方向を教示してきた後藤清一さん。その米寿を祝う会が昨年12月9日、ホテルシェレナで開かれた。創業間もない松下電器に見習い工として入社。20余年勤務後、三洋電機創業に加わり、同社代表取締役副社長として経営手腕を発揮し、世界的企業への発展に貢献。ひたすら働くことを身上に幾度の挫折、衝突、試練の事を思いうちへきた。「昔の事を思うと胸いっぱいになります」と語る後藤さん。



後藤清一さん
御夫妻

フォーラム会長以外にも兵庫県体操協会会長、近代経営者クラブ「MMC」会

長、更に視覚障害者文化振興協会会長と、米寿を迎えた現在も幅広い分野で活躍。

お祝いには内助の功を尽くされた奥様と共に出席。多数の出席者の中、鬼塚アシックス会長は「サンヨ」のネオンを見るたび、井植さん（故井植歳男氏）と共に奮闘してこられた後藤さんを思い出す。米寿と言わず白寿まで」と益々の活躍にエールを贈った。
★100%ピュアでジュシーな恋愛論

恋する女性の強い味方、人気女流作家玉岡かおるさんの初の書き下ろしエッセイ集「ティアドロップ・プラネット」（1200円）が大和書房より出版された。



玉岡かおるさん

長距離恋愛、恋の理論とタイミン、そしてすてきな映画や芝居の小説、と既刊の玉岡さんの小説のルーツを思わせる、なげない日常からの恋愛論が繰り広げられる。「友達とバカ話でもするようない気持ちで読んでますが、書き進むうちにみんなの恋を応援せずにはいられなくなってしまうんです。私、頑張る人が好きなんです」。

カル「戦国播磨異聞ランナウェイ」が3月26、27日加古川市民会館で行われる。問い合わせは同会館 ☎0794-241-5381まで

★神戸二紀女流新人展「神戸っ子賞」に小原公子さん
第8回神戸二紀女流新人展（83年12月13日・17日、生田神社会館）で、本誌提供の「神戸っ子賞」に小原公子さんの「風景 街一人、人」が輝いた。



小原 公子さん

「本当に私がいたでいいんでしょうか、ビックリしています。『風景について』という本がヒントで、大好きな神戸の街と、ハイカラな人々を描きたくて、一ヶ月半かけました。週に2回は家ほったらかしで、大西敏巳先生のアトリエにこもった甲斐がありました。将来は『月刊神戸っ子』の挿し絵を描いたり、上野の森の美術館に出展するくらいになりたいですね」と、受賞の喜びを語る。

「ちょっと年はいったるが（笑）モダンな絵も描くし、新人賞にふさわしい目標をしっかりと持った人」とは師大西氏の弁。第8回の末広がり、生田神社の御祭神である若く水々しい太陽の女神、稚日女尊（わかひるめのみこと）にあやかって、大きく羽ばたいて欲しい。

ほろ酔い対談

「花は半開を見

酒は微醺に呑む」べし

島 京子〈作家〉

高橋 孟〈漫画家〉

酒特集①

★戦地で死ぬものと思ひ決めていた人が…。

司会 本日はお二人に酒にまつわる思ひ出や、酒を仲立ちとする交遊録についてお話しをいただきたいと思ひます。まず、高橋先生はいつ頃からお酒を飲み始められたのですか。

高橋 海軍に入ってからのことやなあ。それまでは奈良漬食べても顔が真っ赤になつてしまふ體質やつた。信じられへんやろ(笑)。今でも飲んだらすぐ顔に出るほうやけどな。

島 初々しいな。やつぱりお酒は飲むにつれて強くなるもんやね。

高橋 本格的に飲み出したのは串良航空隊で下士官になりたての時。九州の大隅半島の、アメリカ軍が上陸すると想定されてた志布志湾のところや。海軍軍人が酒も飲めんのか、という風潮があつて、宴会の時、五合くらいはいる漆ぬりの朱杯になみなみとつがれた酒を「いただきます」言うて飲んだがな。

島 今は一気飲みで命を失う人もいるんやから、注意せな。

高橋 わしら、心臓強かつたからな、大丈夫なんや。若いし、毎日鍛えとつたから。

で、その宴会の日、解散するまではしっかりしとつたんよ。ところが下宿への帰り道、串良の町のご婦人がわしを避けて歩くんや。民間人の前で海軍下士官がフラフラする訳にはいかん、と凛々しく歩いてるつもりやねんけど、千鳥足やつてんやろな(笑)。部屋に入ってから夏やし、アルコールで体は暑いしで蚊帳の中では寝られへん。わしはその先は覚えてないんやけど、後で下宿のおばさんに聞いたたら、嫁はんが一晩中、蚊がこんように煽いどつてくれてたらしい(笑)。

島 ええ話やないの。

高橋 これが本格的な酒との出会い。それから今日まで長いつき合いが続いとるんや。

島 私が飲み出したのは戦後ですから、昭和二四、五年



「本格的に飲みだしたのは、海軍時代のこと」と高橋 孟さん（左）。「戦後すぐの頃は、文学グループの集まりで、焼酎ばかり飲んでたわ」と島 京子さん（右）。

の頃。文学グループ『バイキング』に入ってからのことですね。「バイキング酒」って勝手に命名してたけど、ビール瓶くらいの宝焼酎、そればかり。安かったからやろね。当時は二級酒でも貴重品だったから。

高橋 メチル飲んで失明した人もおるんや、宝焼酎は上等やで。

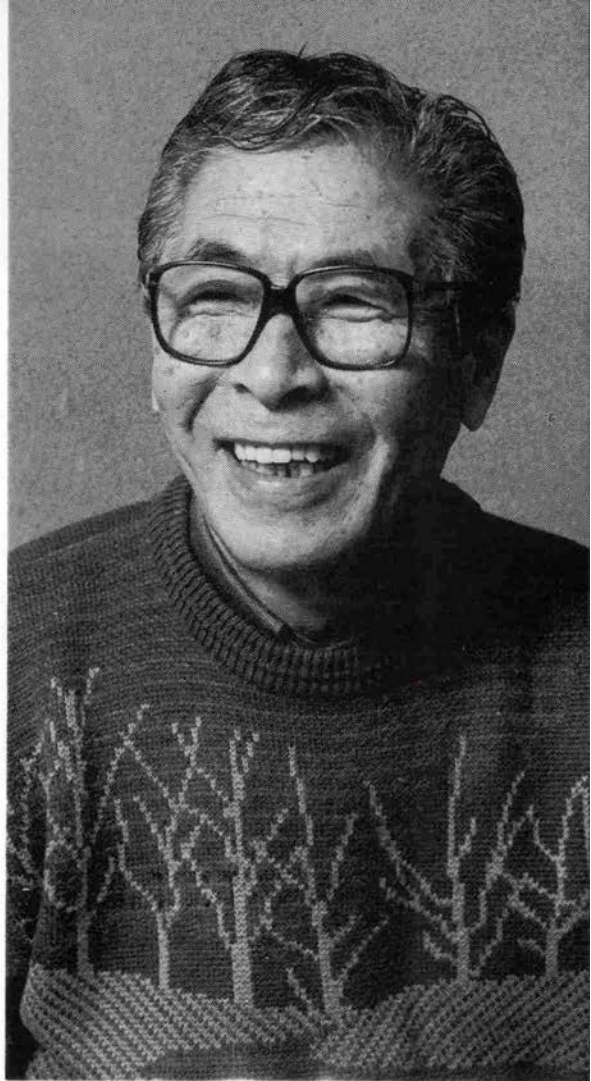
島 あの頃は戦後の解放感もあって、ほんと面白かったわ。島尾敏雄さんとか庄野潤三さん、富士正晴さん伊東幹治さんと、兵隊帰りの人が多かったでしょ。死ぬものと思い決めてた人が無事に帰って来た時の陽気さというものには特別なものがあつたね。それに好きなことが言えて、外も自由に歩ける。ずっと締めつけられた生活をしてたから、解放された時の喜びといったら。お金も物も無くて、あるのは書きたいという気持ちだけ（笑）。原稿はなんぼでも集まるの。だから紙を貰いに行つて、自分達でガリ版刷つて。本に綴じる木綿糸が無かつたので、当時の『バイキング』はたたんだだけやったのよ。高橋 戦地から帰った男は皆飲んだ。酒しかなかったしね。わしにとって酒は嗜好品ではない。薬効のある精神安定剤やね。

島 アルコールを手に入れるのが困難な時代に、ボトルを一本空けてしまうのは、戦地体験者やったわ。私の知つた医者の人がね、実験として中国の人を何人も殺したんだって。そのことを忘れられず、辛い思いから逃れたくて、浴びる程飲んでたのね。結局その人も短命やったけど。

高橋 生きて帰れるかどうかは、ほんま紙一重やったかな。わしもフカにかじられてへんかったら、どうなつてたか。

島 どういうこと？

高橋 乗ってた船がやられて、「総員退艦!!」と号令かけられたんや。「退艦」言うたかて、まわりは海やがな、飛び込むしかあらへん（笑）。ほんでいかに掴まつとつ



たかはし もう 1920年、徳島県生まれ。徳島民報、新大阪新聞を経て、神戸新聞社に入社。20年間にわたって時事マンガ(笑点)を毎日連載。週刊文春に田辺聖子とコンビで15年間挿絵マンガを連載。朝日テレビ「土曜の朝に」に7年間出演「夫婦マンガ」を描く。著書に『海軍めしたき物語』『海軍めしたき総決算』(新潮社)。兵庫区在住。

たらフカにかじられたんや。三人ほどおらへんようになってしもたけど、わしは右足をかじられただけ。あまり美味くなかったんかな(笑)。両足の真ん中をやられてたからえらいことやったけど(笑)。負傷したもんで、陸に上からされたんや。今ではフカに深く感謝しとる(笑)。

★精神的ハングリーこそクリエイターの原動力。

高橋 わしは酒を飲み出してからほんまの漫画が描けるようになったと思うところがあるな。クリエイティブな力は、新聞記者だった父の血をひいてると思う。父は酒飲みで、アイデアマンやった。明治の男やったから、朝から袴姿で一升瓶を横に置いて原稿を書いてた。それがいなせやったんやね。

わしが新大阪新聞から神戸新聞に入ったのは昭和二九年のこと。どこでもあることやろうけど、新参者は試される(笑)。先輩にすこい酒飲みが揃って、「酒も飲めんやつに仕事ができるか」って誘われるんや。わしにしてみたら、歓迎されてんのか、いじめられてんのかよ

うわからんで、「はい」っていつもついて行ってた。「酒も飲めんやつが……」っていうのは、わし自身も少し思ってたことやしね。

島さんは飲み始めた昭和二四年の頃、何をしてはったんや。文筆でメシ食べられたんか？

島 いやいや、作文のようなものをちよろちよろ書いてたくらいで(笑)。「市民タイムス」いう、文芸色の強い新聞があってね、そこで記事を書いていた。神戸新聞の人も、ええ新聞や、言うてえらい誉めてくれたよ。すぐ潰れてしもたけど(笑)。私は新聞記者になりたかってん。そら、神戸新聞とか入ってたわ。そやけど今思うに新聞社なんかに入社して定年まで勤めたら、自分の文は書かれへんかったね。

高橋 クリエイターでいようと思ったら、ハングリーな境遇にないとな。頭も体も、腹が減ってる時の方がよく働く。ハングリーごっこでは、パワーにならんけど……。島 大金持がほんまの芸術家になる例は、あまり聞かへんね。



しま きょうこ 1926年、神戸生まれ。「VIKING」同人。「湯不飲盗泉水」(1965)が第54回芥川賞候補となる。「逃げた」(1968)により第1回三洋新人文化賞受賞。著書に「母子幻想」(1981 構想社)「屋下がりの食卓から」(1984 芸立出版)「世相歳時記」(1982 砂子屋書房)ほか。東灘区在住。

高橋 それでいて根っからの貧しいのはダメ。精神が貧弱なのはいかん。育ちは良くないと…。

島 人間というのは死に行く身でしょ。精神的ハングリ—というのは、人生の無常を感じ続けることやねん。それを忘れているようでは、より良く生きることなんてできへん。人に感動を与えることなんてできないよ。

高橋 欠乏時代に酒にありついた時、欲しかった本を手に入れた時の幸福感は口では言い表されへんくらいやっとな。

島 そうそう。欠乏時代を知ってるのは、ある意味で幸せよ。

★ビールの小瓶が似合う粋な女になりたいね。

島 最近は一人で、とか女同士で飲みに行くことがあるけれど、ひと昔前では考えられへんことやったね。御飯を女が一人で食べるのも惨つたらしいと思ってたのよ。それがあつた時、ビールの小瓶をテーブルに置いて、一人で定食を食べていた素敵な女性を見掛けたという友

人の話を聞いてね、それがサマになるのは粋なことやなあと思ひ直した。

高橋 コップ酒をぐいぐい飲んでも平気な顔をしているのは、女の方が多いかな。でもそういう人は実は家に帰ってドアを開けたらボタンキユーらしいね。酒場にはなんとか粘って二人きりになろうとする送り狼が並んでるからね(笑)。ママや女の子はそれをみんな読んでる(笑)。千鳥足の女は見たことがないわ。日本では男の酔っ払いに寛容やね。

島 一緒によく飲んだのは桜井利枝さん、久保田匡子さん。強かったわ。昔、三宮神社の境内にあった「園」、それから「クインビー」、「セブン」。今は「マコ」「美穂華」「えこーる」がよく行く店やね。

高橋 神戸で初めて飲んだ「小豆」、ここは文学ママがおつた。「オアシス」「ファーストバブ」も懐しい。「ステイル」「武田」は今よく行くよ。

酒に歌はつきものやから、自然発生的に出てくるのはいいけど、近頃の店は酒を出す前からカラオケのマイク

渡すところがあるからねえ。女の子の話題が乏しい分、客に歌わせといたらそら楽やわな。昔はほろ酔いのちようどええ時に「ポロロン、お邪魔しますー」と流しが来たりしたもんや。

★三宮は「夜の図書館」だらけ!

高橋 「街は屋根のない図書館である」とどっかの作家が言うてて、うまいこと言いよるな、と思うたんや。それでわしは「酒場は夜の図書館である」と言うとなねん(笑)。わしは酒を飲む時、横のつながりを非常に大事に思ってる。大抵の人間は一つや二つのドラマは持つてはんなね。酒場ではその筋のエキスパートがすぐ隣に座ってるんや。昼間には聞けないような「実はな……」という話が次々出てくる。人間一人一人が一冊の本に値していて、それがズラッと並んでると思うとなねん。本を読んでいて著者に尋ねたいこともでてくる。そやけど出版社に電話して住所きいて調べようにも、それはなかなか手間やわな。ところが夜の図書館の本はすぐに答えてくれる(笑)。夜の図書館にもいろいろあってね、裁判官の集まる店もあれば弁護士のお店、ゴルフでプロ級の腕前を持った人の集まる店、役者、医者のお店もある。疑問に思うことができたなら「あ、あの店行けばタダで情報はいるわ」てなもんですわ(笑)。飲み代はかかるけど、無駄な酒は飲んでないよ。そしてそこにお目合の女の子がいると、尚よろしい(笑)。三宮は図書館だらけやね(笑)。

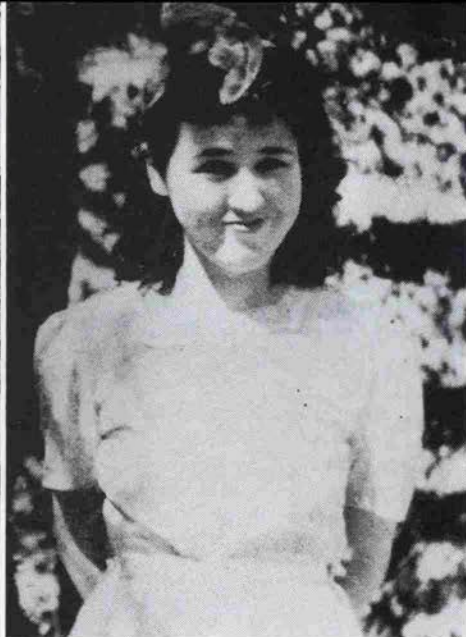
島 お酒のええところは、ほろ酔い加減の時、良いアイディアが浮かぶことやね。ほろ酔いは素敵なエネルギーを増幅してくれる。昔から「花は半開を見、酒は微醺に呑む」と言うでしよう。日本人は「しゃべらぬはしゃべるに勝る」とか言うて、しゃべりを軽蔑することが多いわねえ。それが普段は寡黙なのにお酒はいるところって変わって陽気になる人がいる。わあわあ言うてる間隙について、ええことしゃべったりするんや。カモカのおつ



海軍時代に飲まされた思い出をマンガに… 高橋 孟



前列右より2人目、庄野潤三。2列目右より、富士正晴。島尾敏雄。後列右より2人目、島京子。1人おいて久坂葉子。



昭和25年4月、帝塚山会館にて 島 京子

ちゃんがそうやねん。思いがけない視点から、鋭いこと言うねん。あの人は飲まきなあかん(笑)。読売で漫画描いてはったイワタケオさん。あの人も気の弱い人やったけど、飲んだら豹変。悪戯好きのごんたでねえ、道の看板を担いだりしてましたわ(笑)。

高橋 彼とは良きライバルやったなあ。新聞の風刺漫画は毎日結果がでるからねえ、祝いの酒になったり、やけ酒になったりと、毎晩、明日はどっちの酒を飲むんやろうと思ってたよ。

飲んでる時にふつと名言がでるというのはあるね。自分でもうまいこと言うたなと思うことあるもん(笑)。

で、相手にもそれがあって、お互いどんどん掛け合いになつていくのが楽しいね。わしの言うたことを相手がメモしたりしてな。その名言がいつ出てくるか本人にもわからんのがまた面白い。目がすわってしもたら、もうあかんけどな(笑)。コーヒーでは最初から出てこんよ。

島 小説が売れた時に飲む酒が、やっぱり一番美味しいわ。気の合う仲間が集ってくれて、安心して飲むのがなんとも言えず好きやね。

高橋 これから先、どんな人、どんな酒と巡り合うていくんやろなあ。美味しい酒を飲み続けたいものやね。わしは「夜の図書館」で更なる勉学に勤しむつもりや(笑)。今夜の鳥さんとの酒も実に美味かった(笑)。

△榮弥にて▽

そして、また神戸(4)

極上の不良気分

酒特集②

村松 友視〈作家〉

写真・池田 年夫

「ラインラント」で食事をして神戸の街へくり出す……これもまた、きわめて神戸らしいセンスのスタートという気がする。ディナー・セットを注文するもよし、手づくりソーセージでビールやドイツ・ワインをたしなむのもよしというわけで、この瀟洒なレストランの懷は意外に深い。〃摺りおろしたジャガイモと大量のバターをペタンコにしながら、キツネ色になるまで焼く〃と説明されている「ロステイ」という料理など、神戸の店が一瞬にして南ドイツかスイスにお色直ししたかのような気分を与えられ、ビールやワインの味をあとより立ててくれる。

ドイツ料理に取り組んでいるうちドイツ料理のような貌になったという感じのマスターは、どうやら客の注文に応じていろいろと料理を工夫してくれるタイプのようだ。シュタインヘーガーを小さなグラスにもらい、これをぐいと一気にあおってからビールを飲むというのもマスターに教わったやり方だが、これはちよいと癖になりそうだ。ワインにしても、あれこれと喋っているうちに、料理に合ったのをすすめてくれる。家庭料理のあた

たかさと、あるレベルを超えて愉しもうとする客を満足させるプロの奥行き、両方を持ち合わせながらいわゆる強面の店になっていないあたり、マスターの個性が十分に生きている素敵な店……石原裕次郎華やかなりし頃の〃ごきげんな店〃というセリフがなつかしく思い出されたものだった。

さてその次は私が敬して遠ざけて……いや遠ざかっていた、かの「アカデミー」へと思い切って足を向けた。十年前に三カ月ほど神戸に仮住していた頃も、大きな歩道橋の階段を降りたところにある、蔓のからまった建物の前へ行っては、入る勇気がなくてあと退りした、私にとっては大なるこだわりの店だった。それから何度も神戸を訪れ、そのたびに店の前へ立つのだが、気の弱い押売りみたいな物腰で引き返すことをくり返していた。

私のカミさんなどは一、二度入ったことがあると言っていたが、女は度胸があるというか無神経というかなどと、うらめしい気分をかみしめたものだった。そんなあれやこれやの思い出をもてあそびながら、私は思い切って「アカデミー」のド



シェフの手づくり料理が絶品の「ラインラント」。

中央区下山手通1-1-1 番392-3679 (営)17:00~ 火休

アを開けた。こんな大袈裟な思い入れは、およそ神戸紳士の自然体とは合わないのだろうが、これはもう私の中に宿痾の病いみたいに棲みついている感覚だから仕方がないのだ。

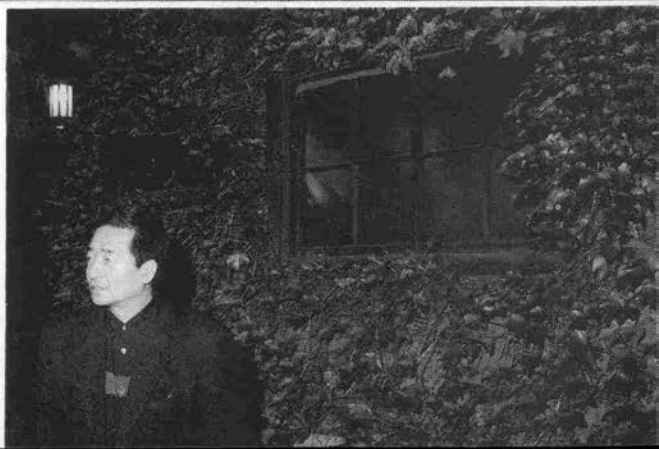
店の中へ入り、カウンターのマスターと目が合って、それまでの屈託が軀の中で嘘のように溶けてしまった。七十年もつづいているバーの空気が、私などの小賢しいこだわりをやりわりと消してくれたという気がするし、私以上の大きなこだわりをもつマスターの眼差しの手品かもしれない。 「アカデミー」へはそうやって初めて入ったのだが、不思議なことに私が描いていた店の雰囲気と同じだった。初めて入ったのになつかしい店……それが、私にとっての「アカデミー」初体験の実感だった。

話してみるとマスターは私と同年輩、オルテガ、カルネラ、ドン・レオ・ジョナサンなどという往年のプロレスラーについて話したりしているうちに、そういう話をしようと待ち構えていたのに何で来ないんやと、かつて神戸に飯住いをしていた私の



神戸で一番古いバー「アカデミー」中央区布引町2-1-1 電話221-5907
(営)18:00~23:00 第1、3日曜休

ことを思っていてくれたという
マスターの言葉を聞き、こだわ
りというのは厄介だと痛感し
た。おそらく、店の中のマスタ
ーのこだわりが外に突っ立って
いた気の弱い押売りの私へのプ
レッシャーとなっていたのだろ
う。つまり、お互いのこだわり
が十年間も二人を疎縁にしたの
であり、初めてなのになつかし
いのは当り前というわけだ。ギ
ムレットを飲んで外へ出ると
き、私があたかも「アカデミー」
の常連であるかのごとき図々し
い顔になっていたのは言うまで
もない。これから神戸を訪れる





「ザ・タイム」のマスター宇座さんは30数種のオリジナル・カクテルのレシピをもつ。

中央区加納町3-2-8 電話334-0723 (営)17:00~24:00 日休

たびに、私がここへ足を向けるのはまちがいのないところだろう。

七十年の歴史をもつバーから、二年前に開店した「ザ・タイム」へ河岸をうつした。そして、ここにもまったく別の流儀のバーらしいムードがあり、毎度のことながら神戸という街の奥深さを感じさせられた。この店には、先代からの空氣の尊厳がただよう「アカデミー」とはちがう、これから歴史を刻もうとしている店の生々しさがただよっていた。

カクテルという存在について、すでに登録されたメジャーな名前を口走るのも心地よいが、その場で一句詠むように即興でつくられる世界もわるくないという気持ちで、私はひそかに抱いている。松江に行ったとき、あるバーで「不味公」というカクテルをつくってくださいと注文したら、マスターが玉露リキュールをベースにしてシェーカーで振ってくれたのを思い出して、何か和風のカクテルはと言ってみると、にっこりとうなずいて「利休」なるカクテルをつくってくれた。



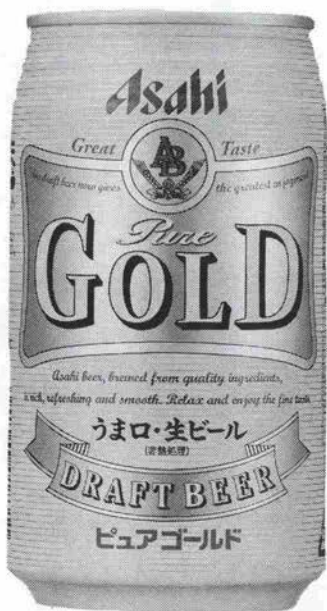
懐の深いバー「トム・キャンティ」。

中央区加納町4-9-17 番331-2122 (営)18:00~1:00 日休

吟醸酒をベースに、抹茶のリキュールと抹茶そのものを合わせたそうだが、これがなかなかの風味、女性客にも人気があると聞いて私は大きくうなずいた。店と客との風雅な関係が思い浮び、「ザ・タイム」もまた私の頭に強く焼きついた。女性を連れて来るのには最高だな：私は、当てもないのにそんな眩やきを吞み込み、悦に入ってしまった。しばらくの時をすごさせてもらった。

いろいろな店を飲み歩いたあと、ゆったりと落ち着きたいと思ったときの店も、神戸の街はちゃんと用意してくれている。御存知「トム・キャンティ」だ。適当な賑わいと適当な静かさ：なかなか成立しにくいはずのムードが、ごく自然に出来あがっていた。マスターとのやりとりも気分よく、私はラム酒のおいしいやつを教えてもらい堪能した。一人でも女性連れでも悪友とでも、どんな組合せでもこの店の雰囲気には、すんなりと馴染んでしまうだろう。おいしいラムの酔い心地がフィナーレとなって、私は極上の不良気分でホテルへ向ったのである。

Asahi
アサヒビール



◎あきかんはリサイクルへ

うまロ・生ビール。

好評
発売中

**アサヒ
ピュアゴールド**

ビールは、20歳になってから。

アサヒビール株式会社


SAPPORO

結局、飲んでる
黒ラベル



サッポロ〈生〉黒ラベル

サッポロビール株式会社

飲酒は20歳を過ぎてから

'94神戸酒徒番附選考座談会

堅実な一年の神戸経済界



酒特集③

西／経済人
〈審査員〉

木下 健
〈三富商店取締役社長〉
角田 嘉宏
〈弁理士〉

寺本 晃
〈淡路屋取締役社長〉
重兼 巨
〈神戸新聞社広報部部長〉

――ご多聞にもれず、神戸の経済界も厳しい環境の中にありますが昨年の神戸経済界の総括をして頂きたいと思います。審査の基準の目安は従来通り、各企業の業績内容、社会への貢献度、そして各人の酒量も考慮に入れていただきませう。

A 60才の定年を迎える人がいますね。

C カワノの河野忠博、タクトの松田英三郎の二人。

B 昨年は特に目立った動きがあまりなかったようです。

D そう、目玉がなかった。アーバンリゾート・フェアがあったけれど、経済的にもうひとつ物足りなかった感じだ。

A そう言っても始まらない(笑)全般に堅実であったと言っておこうか。では、三役から見ている。UCC上島珈琲の上島達司の正横綱は動かせない。大証二部に上場したワールドの畑崎廣敏は張

出横綱筆頭が順当だ。

C もう一人は伊藤ハムの伊藤研一でどうだろう。

B 厳しい経営環境の中、食品は手固く頑張っていたからね。

A 活躍めざましい乾汽船の乾英文は正大閣に推したい。

B 賛成だ。張出大関は白鶴酒造の嘉納秀郎とジャヴァの細川数夫二人とも安定している。

A 正閣脇にはつるや衣裳の島田光夫に昇進してもらおう。今年で定年になるが、今まで本当によく頑張ってくれた。

D 人柄も申し分ない。

A 飲みっぷりもよかった。

B 次に、好調のシャルレの林雅晴、そしてJ.R西日本の井手正敏がこれに続く。

D 小結は堅実な川西倉庫の川西章二がいい。

C 今津建設の今津成生は、砂かぶりから土俵に入ってもらおう。

D いきなりの三役入りだ。神戸

レジャーワールドは明るい話題だった。その伊藤正視は張出小結。これからが楽しみだ。

――次に平幕を。

A 前頭筆頭は神戸コロッケが大好評のロックフィードの岩田弘三になってもらう。

B 文句ないね。それに続くのがノエビアの大倉昊、これも動かせない。沢の鶴の西村隆治も健闘している。

A そして木下真珠の木下章夫。

食品とともに真珠も去年よく頑張ったね。続いてファミリアの岡崎晴彦だ。

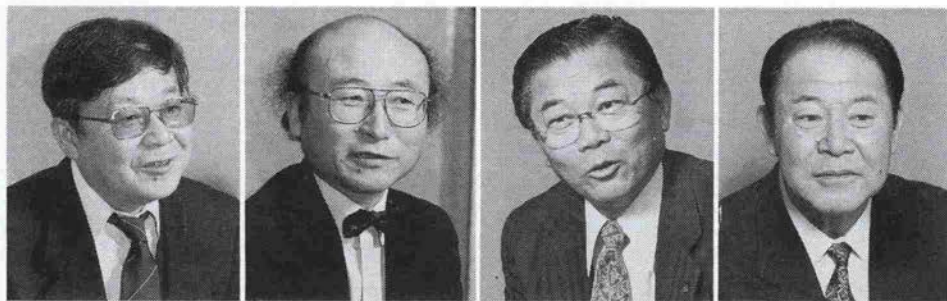
C イズムの小田俱義、ユーハイムの河本武には今年のさらなる活躍を期待したい。

D ノザワの野澤源二郎、小林桂の小林博司は実力者。六甲バターの塚本哲夫も良かった。円高の影響も大きいみたいだ。エム・シー・シーの水垣宏隆、淡路フェリーボートの井植貞雄も順当なところ

だ。

B アポロメックの吉岡昭一郎は
いささか不調。業界全体が悪かつ
たからね。

A 業界で大躍進した和田興産の
和田憲章は入幕してもらおう。マ



重兼 亘さん

角田 嘉宏さん

寺本 清さん

木下 健さん

ヤテックの五代友和は経済同友会
で委員会の座長として提出した報
告書が注目された。兵庫ヤクルト
販売の阿部泰久は本年度のJICの
理事長に就任。JCI世界会議神
戸大会も控えているし期待も大き
い。二人とも入幕決定だ。

——前頭は何如ですか。

A 光青工業の橋本哲夫はJICの
理事長として昨年一年間活躍して
くれた。労をねぎらって前頭筆頭
にしたい。

B 続いて神明の藤尾益也。大工
建設の西宮章泰。

D 高嶋酒類食品の高嶋良平、オ
ールスタイルの中田美明に続いて
もらうのが妥当だ。

C キムラタンの木村喜彦はアト
ピー性の人でも着れるシャツを作
ったよ。六枚目に初登場してもら
おう。

A 結構だね。次が神戸女子短大
の行吉誠之。女性で奮闘している
風月堂の下村俊子。タカハシパー
ルの高橋洋三、カネテツデリカフ
ーズの村上健、オリバーソースの
道満雅彦は堅実にやっている。

B 続いて西村屋の西村理、淡路
屋の寺本勤、龍鯉・木村酒造の木
村喬二、そしてコスモポリタンの
バレンティン・エフ・モロゾフと
永田良介商店の永田耕一。永田は
JCI世界会議神戸大会の実行委
員長だ。これでベストの布陣にな

った。

——最後に三賞の選考を

A JICの理事長を務めた橋本哲
夫には敢斗賞で決まりだ。

C 殊勲賞には大工建設の西宮章
泰を推したい。権威ある建築賞の
「BCS賞」を受賞したからね。

A 昨年は米の緊急輸入が話題に
なったけど、神明の藤尾益也には
いろんな意味で頑張ってもらいた
い。

D 技能賞もこれで決定だ。

C 永らく取組場所として頑張っ
てくれたクラブるふらんが店を閉
めた。お疲れ様と一言いっておい
たい。

B とにかく今年はもっと活気あ
る一年にしたいね。

——敬称略△榮弥にて▽



'94神戸酒徒番附選考座談会

神戸の個性豊かな新人登場



酒特集 3

東／文化人

〈審査員〉

武田 則明

〈建築家〉

有井 基

〈フリーライター〉

伊藤 誠

〈美術評論家〉

——昨年一年間の文化活動を振り返る、東「文化人」の酒徒番附。

アーバンリゾートフェア神戸'93の開催により、神戸は活気づきました。文化活動でお金もうけはできないもの。不況の中でも文化人の話題は事欠きません。では番附を見ていきましょう。

A 今回六十才の定年を迎えたのは元町画廊の岡田弘。

B 風月堂のロドニー賞を受賞したところで、いい花道だったね。

A 文芸からいこう。まず小説家の伊良子序。「サドンデスの橋」でマリリン文学賞をとった。

B 玉岡かおるは昨年末に初の書き下しエッセイ集を出したね。

C 武庫川女子大学の職員のためみ都志は今年の神戸文学賞で佳作を受賞。

B 堀江珠喜もエッセイに講演に頑張っているよ。

A 詩人の時里二郎も良い仕事を

している。

C 筒井康隆の断筆宣言には驚いた。定年まであと一年、突っ張って欲しい。

A 後に続く人がもって出てきて欲しいね。

B 音楽では小曽根真がアーバンリゾートフェア神戸'93のオープニングで大活躍。

A ソプラノの水澤節子はリサイタルを開いたが、入幕にはもう一息。

C 延原武春を忘れていた。昨年三十周年を迎えたよ。前頭筆頭だ。

B 建築の森崎輝行は「家展」など多くの展示会で、アーキテクチュアフェアKOBエを盛り上げたよ。それから鍵野洋子は老人医療の分野で必ず出てくるね。

A 美術では彫刻の新谷英子が作った「文化の灯」がアーバンリゾートフェア神戸'93の開催を記念して、市長によって点灯された。

B 海文堂の島田誠も頑張っているよ。二枚ほど上に上げようか。

C 榎忠は色んなパーティーで大砲を鳴らしてくれた。健在だね。

B 造形の松谷武判はスペインで展覧会を開いたよ。彼はすごいね。木津文哉は昨年暮れ安井賞佳作賞をとった。安定してるよ。

A 造形の松本薫は、実際に買われた作品が多いことを評価したい。「印象神戸絵画展」で花ひらいた山本豊は新人ながら五十才に近い。だから面白いんだ。

B 洋画の松下元夫は熟してきたね。また河崎晃一は第一回兵庫県芸術奨励賞をとった。

C 芸術奨励賞といえは邦舞の藤間莉佳子、洋舞の貞松正一郎も受賞したね。貞松は、チャイコフスキーの三大バレエが素晴らしい。高瀬浩幸と共に頑張った。

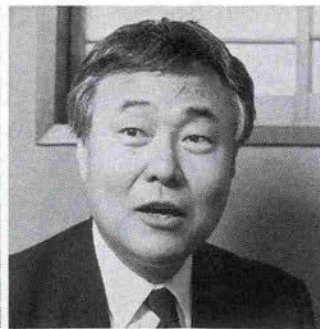
B 若柳吉金吾は赤字を覚悟しながらも第六回目のリサイタルで充実した舞台を見せてくれたよ。「雨」はいい。



伊藤 誠さん



有井 基さん



武田 則明さん

A 劇団神戸の夏目俊二の夫人小倉啓子は一人芝居が光っていたね。新入幕だ。
C 横網の3人はどうだろう。
B 3人とも全国区だからね。変わらないよ。

A その他の話題はどうか。
C 白羽弥には前回の映画でスポンサーがついて、三億円で新作『グリーンクリスマス』を撮ることになっている。ますます頑張っ
B 神戸製鋼ラグビー部の平尾誠二。日本一V6達成はたいしたものだ。
A 漫画の岡田淳は『路傍の石幼少年文学賞』をとった。さすがだよ。
B 小山乃里子はこれからも頑張っ
C 野口武彦は萩生徂徠をテーマにした本を出したが残念ながら今年も休場だ。松本宏も良い仕事をしていたが…。
B デザイナーの中西省伍が発起人となった『神戸カメラミュージアム』がオープンしたよ。
C だが中西はもう定年だ。若く見えるが。
A ファッションが弱いね。藤本ハルミもいい本を出したが定年を過ぎてるしね。
C 嵯峨御流華道会議の議長、吉田泰巳はよく頑張っていると思うが。
B その通りだ。本も出したし、兵庫県いけばな協会をリードしているのは彼だよ。
C 浅黄斑という推理小説作家を知っているかい？ 有望株だそう



— 敬称略 八榮弥にてV

だよ。
A では今後の活躍を見ることとして…三賞を検討しようか。
B 三賞には森崎輝行を入れたいね。とにかく展覧会を八回催したのは立派だ。技能賞でどうだろう。
A いいね。筒井康隆はあれだけ世間をあつと言わせたのだから、特別賞をあげたいくらいだ。
C 殊勲賞には貞松正一郎。あのチームワークはすごいよ。
A 敢闘賞には今一番乗っている若柳吉金吾。
B 決まりだ。今年は新しい名前がたくさん入ったね。これからは新しい人たちをどんどん入れていきたいね。

OLD KOBÉ

オールド・コウベ

神戸市中央区山本通4-2-13

神港学園100m東入る

TEL.221-1404

素舌洞

Déssin

でっさん

神戸市中央区北長狭通 1-5-12

TEL 331-6778

スリッパ

皇親華

神戸市中央区下山手通2-12

TEL 322-3253

PETTY
THEATER

神戸市中央区下山手通 2-1-13

第13シャルマンビル3F

TEL 332 - 2239

メンバーズ

醅

神戸市中央区加納町 4-9-29

パシフィックアトラス 神戸ビル3F

TEL391-4345

58

1

平成六年

司

園樽瀧田
田本川崎

正和 博俊
久司 作

縮 役

秋田 博正
中内 功
柏井 健一
鬼塚喜八郎

進元

神戸っ子

西 〈經濟人〉

張出小結	伊藤	張出大閨	細川	張出閨脇	井手	張出閨脇	林	小結	川西	張出小結	今津	張出橫網	畑崎	橫網	上島
------	----	------	----	------	----	------	---	----	----	------	----	------	----	----	----

正視(集客産業)
 成生(建設)
 章二(倉庫)
 雅晴(繊維)
 正敬(鉄道)
 光夫(衣裳)
 数夫(繊維)
 秀郎(清酒)
 英文(海運)
 研一(食品)
 廣敏(繊維)
 達司(珈琲)

前前前前前前前前前前前前前前前前前
頭頭頭頭頭頭頭頭頭頭頭頭頭頭頭頭頭
岩大西木岡小河野小塚水井吉和五阿
田倉村下崎田本澤林本垣植岡代部

[illegible]

橋藤西高中木行下高村道西寺木 永
本尾宮嶋田村吉村橋上満村本村 エフ
折益意白美責誠俊道 聯 香

呂 盤 卓 良 美 喜 誠 俊 洋 雅 高 粉
夫 也 泰 平 明 彦 之 子 三 彦 理 勤 二 一
(食)(住)(食)(織)(織)(教)(製)(真)(食)(食)(飲)(食)(清)(製)
(電子機器)(食品)(宅)(品)(維)(育)(菜)(珠)(品)(品)(食)(品)(酒)(葉)(具)

技能賞	藤尾	益也
敢闘賞	橋本	哲夫
殊勲賞	西宮	章泰

勝負検査役

石沢菊山市杜奥川
阪井水本野山村上

春修啓弘
生一輔泉之悠孝勉

〈西方〉取組場所

飛鳥・アルバートロス、北野小
・セントジョージ、なざ・十
・ブル・松の家、山の手
・アル・モネ・エミレ
・らん・内田・シャンゼン
・コス・赤いピアノ・椅子
・大・マイセン・ジュエ
・カサ・ピカク・ネ・かけ
・花・い・ピアラ・の
・水・ぬい・ライ・の
・候・二・神・戸・楽・部・の・機
・あ・あ・醒・醒・劇・演・劇
・マイ・ウ・フ・リ・ン・シ・ハ・ト

番附審査

木下	寺本	角田	重兼	伊藤	有井	武田
健	滉	嘉宏	亘	誠	基	則明

チャコの店

ひいらぎ

神戸市中央区下山手通2-11-1
KSMビル1F
TEL.332-5616

ジャズ

ライブハウス

ALBATROSS
神戸ALBATROSS

神戸市中央区中山手通1-22-10
ZOUビル2F
TEL 231-3300

STILL

神戸市中央区中山手通1-4-13
東門会館
TEL.332-5759

山菜料理 六段

神戸市中央区琴緒町5-4-5
TEL 231-0406

サント・ノレ

神戸市中央区下山手通2-5-6
TEL.391-3822

神戸市中央区中山手通1-22-10
大和ナイトプラザ6F
TEL.221-3886

神 戸 酒

蒙御免

行

望月 中西 高橋 元永

美佐 勝孟 定正

取

陳聖臣 田辺 長文 朝比奈 木口 衛隆

勸

編集室

東〈文化人〉

横網筒井	張出横網	大関池上	張出大関	張出大関	関脇朝比奈	張出関脇	小結松谷	張出小結	張出小結
康隆小説	浩司将棋	一樹映画	忠治美学	琇紀彫刻	真音楽	国雄将棋	隆久神社	武判造形	誠二(スポーツ)
前頭筆頭	前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	前頭

延原	榎田	島柳	若花柳	須谷	新田	吉田	白田	貞松	松本	東津	藤原	玉岡	森崎
前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	前頭

武春	芳誠	金吾	克彦	英彦	泰彦	弥三	幸三	文一	お護	輝行
前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	前頭

小山乃里子	松本薫	伊藤元	岡崎三	岡崎三	岡崎三	岡崎三	岡崎三	岡崎三	岡崎三	岡崎三	岡崎三	岡崎三	岡崎三
十兩筆頭	十兩筆頭	十兩筆頭	十兩筆頭	十兩筆頭	十兩筆頭	十兩筆頭	十兩筆頭	十兩筆頭	十兩筆頭	十兩筆頭	十兩筆頭	十兩筆頭	十兩筆頭

殊勲賞 貞松正一郎
敢闘賞 若柳吉金吾
技能賞 森崎輝行

砂 か む り

山本 芳樹
西村 功
藤本 ハルミ
鳥越 哲

〈東方〉取組場所

アテイツク・園居・エトワ・オ
一本・喜八・京・かてな
時代・山・五段・サントノ
で・ぼん・マコ・フア・ノ
ブ・ぼん・マコ・フア・ノ
バイ・ぼん・マコ・フア・ノ
カン・チウ・マコ・フア・ノ
サ・ビ・マコ・フア・ノ
吉・デル・マコ・フア・ノ

休場 野口 武彦
松本 宏
呼出し 小泉康夫
時雨不測連日無休相替中候